



平成29年11月13日

各 位

会 社 名 日 本 金 銭 機 械 株 式 会 社  
代 表 者 代 表 取 締 役 社 長 上 東 洋 次 郎  
(コード番号：6418 東証1部)  
問 い 合 せ 先 取 締 役 上 席 執 行 役 員  
経 営 企 画 本 部 長 高 垣 豪  
電 話 (06) 6703-8400 (代表)

## 「新中期経営計画」ローリングプラン（Ⅲ）の策定について

当社グループは、2015年5月12日に発表しました2017年度(2018年3月期)を最終年度とする「中期経営計画」ローリングプラン（Ⅱ）につきまして、今般、2020年度(2021年3月期)を最終年度とするローリングプラン（Ⅲ）として全面的な見直しを図り、新たに策定しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

### 1. 「新中期経営計画」ローリングプラン（Ⅲ）の概要

#### 【策定に当たり】

- (1) 2011年3月期より、7期にわたり業績の回復・拡大に向けて積極的に取り組んでまいりましたが、本日、開示いたしました「特別利益・特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり、現在推進中の中期経営計画の最終年度に当たる今期の収益計画におきましては、厳しい状況にあります。
- (2) 新中期経営計画ローリングプラン（Ⅲ）では、
  - ・ 来期以降、中長期的な視野で事業環境（市場の需給動向、法規制の動向等）を中心に、各事業施策の進捗状況等を慎重に精査しました結果、定量目標、並びに基本方針、重点施策等につきまして、抜本的な見直しを行いました。
  - ・ 基本方針に掲げました「企業価値向上に向けた収益構造、経営体質の改善」の下、2021年以降の新たな成長軌道への橋渡しとしての重要な期間として位置づけ、重点施策を中心に全力投球し着実に実行してまいります。

#### 【基本方針】

「グループ全体の企業価値向上に向けた収益構造、経営体質の改善」

- (1) グループのグローバル・ガバナンス体制の強化
- (2) 収益力の強化、収益基盤の再構築
- (3) グループでの事業推進・執行力アップとスピード化による競争力の強化
- (4) 長期ビジョンとして、2021年以降の新しい時代の変化に耐えうるJCMグループの事業基盤づくりの創造。

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

## 【重点施策】

### (1) 新規事業領域の拡大

#### (販路拡大)

- ・第3の事業部門である、アジアを中心としたグローバルコマースの機能力強化により、市場・地域・顧客層の拡大を加速化させる。

#### (新製品開発による新市場創出)

- ・マーケティング機能を重視した新体制の研究開発部門の開発力強化により、新製品の上市による売上げへの貢献を急ぐ。

### (2) 既存事業領域の収益性の改善

- ・営業部門を中心に、開発、生産、品質、保守・メンテ事業等、一貫した収益構造・体質を改善する。

### (3) 長期ビジョンを視野に、新しい事業分野として第4の事業部門を創造する。

### (4) 上記(1)～(3)の施策に対し、各事業部門の再構築を中心に、M&A等の戦略投資をはじめ、財務戦略、人事戦略等、最適な経営資源を傾注し、中期計画の達成に向けて取り組むこととする。

## 2. 「中期経営計画」ローリングプラン(Ⅲ)の定量目標

### 【連結業績】

(単位:百万円)

	2018年度 (2019年3月期)	2019年度 (2020年3月期)	2020年度 (2021年3月期)
売上高	30,500	32,500	33,500
営業利益	1,300	1,750	2,000
当期純利益	800	1,150	1,300

### 【主な経営指標】

- |           |        |    |
|-----------|--------|----|
| (1) 営業利益率 | 2020年度 | 6% |
| (2) ROE   | 2020年度 | 4% |

## 3. その他

現在、新中期計画の初年度より速やかに推進して行くため、今下期中より前倒し(現中期計画の仕上げ)で課題の解決・整備、施策等を実行に移し、各目標の達成に向けて積極的に取り組んでまいります。

以上

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。